



6/6

総務大臣からの感謝状贈呈

小新 芳枝さん（船越）へ
感謝状が贈呈されました！

6月6日（木）、西ノ島町役場にて、総務省中国四国管区行政評価局長より、昨年度末に行政相談委員をご退任された小新 芳枝さんへ総務大臣からの感謝状が贈呈されました。

小新さんは、平成13年4月1日から平成31年3月31日までの18年間で、西ノ島町担当の行政相談委員として西ノ島町に貢献していただいたとともに、行政相談制度の発展に寄与されました。

この度、このような長年にわたるご功労に対して、総務大臣より感謝状が贈られることとなりました。

長年にわたりご尽力していただき、誠にありがとうございました。



▲小新 芳枝さん（船越）

6/12

地方自治・教育行政の発展に貢献

前野 忠教さんに瑞宝双光章

6月12日（水）、島根県庁にて、島根県知事による叙勲の伝達式が執り行われました。

西ノ島町からは、平成31年3月にご逝去された、元西ノ島町助役前野 忠教さんが瑞宝双光章を授与されました。

前野さんは、昭和34年に本町に奉職以来、職員として、また、助役、教育長として、豊富な行政経験と卓越した識見や指導力を発揮し、地方自治や教育行政の発展に貢献されました。今回の受章はこのような功績が認められたものです。

これまでの、ご功労に敬意を表しますとともに、謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。



6/12

西ノ島町の牛が高く評価

隠岐郡畜産共進会開催

6月12日（水）、西ノ島町畜産振興施設にて、令和元年度隠岐郡畜産共進会が開催されました。

共進会とは、畜産農家が日頃丹精込めて飼養管理した牛を（公社）全国和牛登録協会の審査標準に基づき、日齢に応じた良好な発育、将来的に母牛として活躍できるか等について体型を審査し、序列を決める牛の品評会のことです。牛の改良の成果や振興を目的に毎年開催されています。

今回の隠岐郡畜産共進会では、1区子牛の部（5〜12ヶ月齢未満）、2区若雌の部（12〜22ヶ月齢未満）の2部門に計25頭の出品があり、うち西ノ島町からは子牛4頭、若雌5頭の計9頭が出品されました。

西ノ島町の出品牛については、残念ながらグラントチャンピオンの受賞はできませんでしたが、船越の川上 勲輝さんの子牛「てるはやざくら号」が1区特選賞2席、「しげざくら号」が1区特選賞3席を受賞されたほか、三度の若松 智和さんが2区で出品された「うめひさ号」が2区特選賞4席を受賞するなど、西ノ島町の牛の品質の良さを知っていただくことができました。



▲審査中の「てるはやざくら号」

初夏の健康ウォーキングの開催

5月26日(日)、とって隠岐ソーデーウオークに併せて町民対象のウォーキング大会を開催し、子どもから大人まで31名の方が参加されました。

スタート前に「がんばるぞ!」「完歩する!」など、各々の目標やメッセージをゼッケンに書き込み、そのゼッケンを胸に元気よくスタートしました。



今年は昨年同様、初めての参加者がとても多く、普段歩くことのない道で、写真を撮ったり、子ども達は虫をとったりして、それぞれ思いの楽しみ方をしながら、春の西ノ島の絶景の中を歩きました。この町内版ウォーキング大会は、春と秋の年2回開催しています。秋は比較的平坦なコースを計画しておりますので、ご家族連れ、ご友人での参加をお待ちしております。



熱中症にご用心!

熱中症予防には「水分補給」と「暑さを避けること」が必要です。
特に高齢者や子どもの方は注意が必要です。

梅雨から夏にかけて注意していただきたいのが「熱中症」です。

熱中症は気温がそれほど高くないときでも、湿度が高いとき、風が弱いとき、急に気温が上昇したときに起こりやすいといわれています。また、その日の体調がすぐれなかったり、寝不足だったりすると注意が必要です。

熱中症の症状は、めまい・立ちくらみから始まり、頭痛・吐き気・体がだるい、重症になると意識がない・もうろうとする・けいれん・高体温・呼びかけに対して返事がおかしいという症状が出ます。

熱中症かなと感じたら、涼しい場所に移動し身体を冷やしましょう。水分・塩分もしっかりと補給しましょう。自力で水が飲めない方や、意識がない方がいる場合はすぐに医療機関へ連絡し、医療機関に連れて行きましょう。

熱中症は重度になると命の危険性が高まります。熱中症になる前にしっかりと予防することが非常に重要です。若いからといって油断は禁物です。自分自身の自己管理に加え、周りの人と声をかけながら対策に取り組んでください。これからだんだんと気温が高くなりますので、気をつけていきましょう。



日差しが当たらない
場所での休息



こまめな水分補給
塩分補給



規則正しい
生活習慣



他にも…通気性のよい衣服を着る、エアコン・扇風機を活用する、シャワーやタオルで体を冷やす、暑い時は無理をしない、など

どうして高齢者や子どもは注意が必要なの??

高齢になると暑さに対する感覚や口の渇きを感じにくくなります。加えて、発汗など体から熱を逃がす機能も低下するため、体の中に熱がこもりやすくなります。生活環境の改善や体調管理に加えて、緊急時の連絡先を確認しておくことも大切です。また、子どもは体温の調節能力が十分に発達していないため気を配る必要があります。